

分野	科目群で身につける能力	修士課程1年次	修士課程2年次
代数学	講義科目においては、代数学分野における高度な専門知識を広く身につけ、文献研究において密な指導によりその知識を活用して自らが見出した問題に取り組み解決する。	整数論(一), 整数論(二) 代数学特論(一), 代数学特論(二) 代数学特論(三), 代数学特論(四) 代数幾何学, 特異点論	文献研究(一) ———— 文献研究(二)
幾何学	講義科目においては、幾何学分野における高度な専門知識を広く身につけ、文献研究において密な指導によりその知識を活用して自らが見出した問題に取り組み解決する。	微分幾何学特論(一), 微分幾何学特論(二) シンプレクティック幾何学(一), シンプレクティック幾何学(二) ゲージ理論(一), ゲージ理論(二) 位相幾何学(一), 位相幾何学(二) 幾何学特論(一), 幾何学特論(二)	文献研究(一) ———— 文献研究(二)
解析学	講義科目においては、解析学分野における高度な専門知識を広く身につけ、文献研究において密な指導によりその知識を活用して自らが見出した問題に取り組み解決する。	関数解析学特論(一), 関数解析学特論(二) 解析学特論(一), 解析学特論(二), 解析学特論(三) 微分方程式特論(一), 微分方程式特論(二) 実関数論(一), 実関数論(二) 応用解析学特論(一), 応用解析学特論(二) 関数論, 偏微分方程式論	文献研究(一) ———— 文献研究(二)
確率・統計	講義科目においては、確率・統計分野と関連分野における高度な専門知識を広く身につけ、文献研究において密な指導によりその知識を活用して自らが見出した問題に取り組み解決する。	確率論特論 統計学特論(一) 他に、他分野に分類されている、関連の強い科目も履修する	文献研究(一) ———— 文献研究(二)
全分野共通	多岐にわたる現代数学の先端に触れると共に、積極的に学外とも交流する姿勢を身につける。	特別講義(一)～特別講義(八) 大学院数学連絡協議会加盟11校*の開講科目	
	現代社会における科学の役割を認識し、数学の社会への応用可能性を探る。	知財情報科学, 環境安全科学	
	国際的な活動に不可欠な、英語能力を作文、読解、プレゼンテーション、会話など多方面で身につける。科学者の倫理について意識を高める。	「大学院共通教育プログラム」(修了所要単位には含まれない)	

人材養成などに関する目的

次の要件を満たすような人材に修士(理学)の称号を授与する。
 (専門性)数学の分野において高度な専門的学識と研究能力を持ち、以て数学の専門分野の諸問題を能動的に解決できる。
 (社会性)数学の基礎的な重要性和応用可能性を認識してこれを社会に普及、あるいは教員として教授できる。さらには理学を超えて広範な分野に応用することで、持続可能な社会の構築に貢献できる。
 (国際性)数学の専門分野及び関連する分野における諸問題に対処することができるような、国際的な視点と対話能力を持てる。

カリキュラム・ポリシー

修士課程においては、学部教育で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、本専攻の定める目的を実現するために以下の方針で教育課程を編成する。
 (1)「専門科目」では、高度な専門知識を身に付けるために必要な基礎科目と専門分野に特化した特論を配置する。
 (2)「教養科目」では、幅広い学識を養う授業科目、コミュニケーション能力、倫理観、国際性を養う授業科目を配置する。
 (3)「研究指導」では、文献の調査と指導教員との議論を通して、研究遂行に必要な知識と経験を修得する。2年間の研究成果を修士論文としてまとめる過程で、研究内容を分析・評価・表現する能力を養う教育を行う。

(*大学院数学連絡協議会加盟11校相互の講義の聴講・単位互換制度。4単位まで認められる。)

津田塾大学, 中央大学, 学習院大学, 上智大学, 国際基督教大学, 明治大学, 日本大学, 日本女子大学, 立教大学, 東京女子大学, 東京理科大学

凡例.

■ は必修科目。何も注記がないものは選択必修科目